

「令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果について 川西中学校

1 調査の概要

- 調査対象者：中学校2年生
- 調査の内容：ア 実技に関する調査

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、持久走又は20mシャトルラン（本校実施）、50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げ
イ 質問紙調査（運動習慣、生活習慣）

○結果をまとめる目的

・我が国の小・中学生の体力や運動能力の結果は平成26年以降、緩やかな上昇傾向にある。しかしながら、本調査における、本道の状況は、小・中男女いずれも体力合計点が全国平均より低く、運動時間が少ない児童生徒の割合が高い等の課題が見られる。そこで本校の生徒の状況を分析し、今後の体力等の向上に向けた指針となればと考える。

・また、「体育授業の改善・充実」「運動習慣の定着に向けた取組」などを進めたいと考える。

2 実技に関する調査について

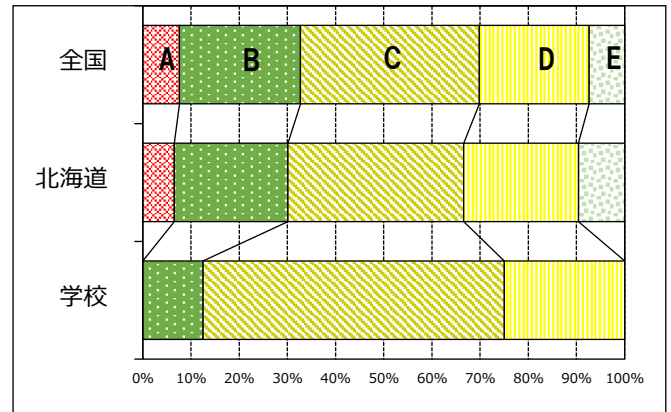
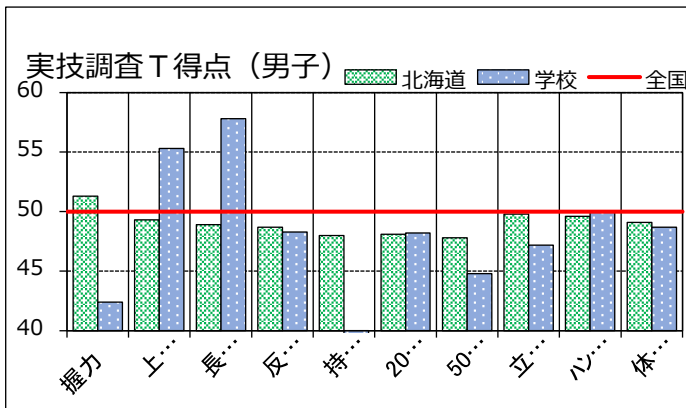
(1) 主な結果

【全国、北海道との比較】

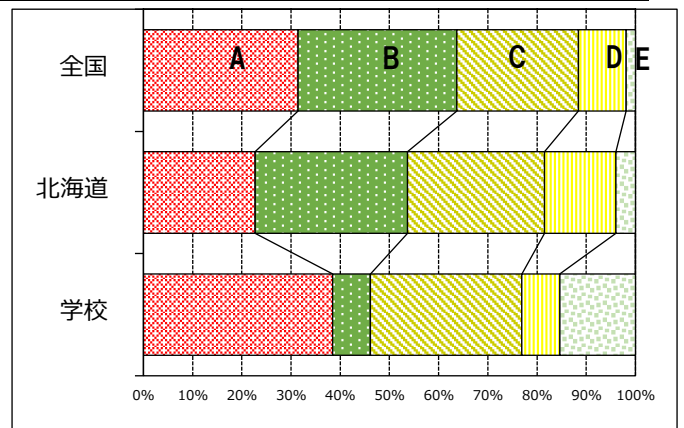
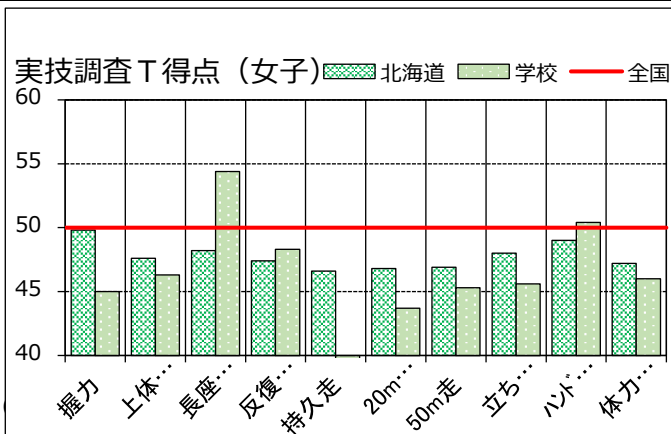
下の表は男女別の実技の平均値を表しています。

総合評価は全実技を点数化しその合計値によってA～Eで表したものです。

男子	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (点)	20mシャ (回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ハンド (m)	体力合計点 (点)
全国	28.65	26.96	43.50	51.91	83.53	8.02	195.03	20.40	41.69
北海道	29.58	26.50	42.34	50.85	78.97	8.21	194.58	20.17	40.72
川西中	低い	やや高い	高い	やや低い	やや低い	やや低い	低い	平均並	やや低い

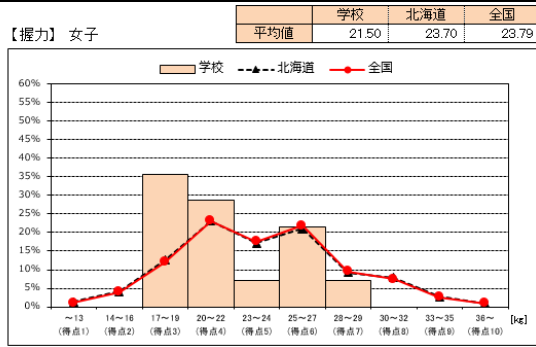
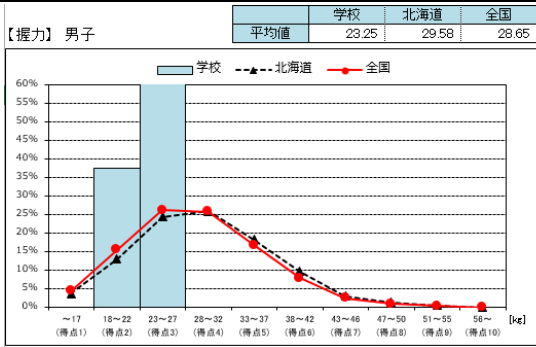


女子	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (点)	20mシャ (回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ハンド (m)	体力合計点 (点)
全国	23.79	23.69	46.32	47.28	58.31	8.81	169.90	12.96	50.22
北海道	23.70	22.27	44.56	45.52	51.98	9.06	165.08	12.54	47.14
川西中	やや低い	やや低い	高い	平均並	低い	やや低い	低い	やや高い	やや低い

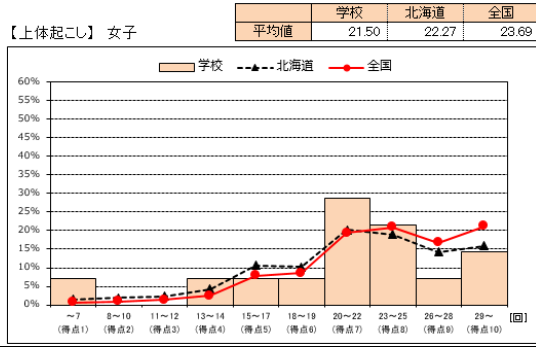
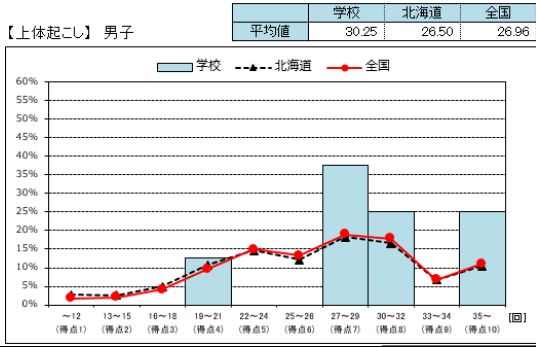


各種目ごとの結果（男女別）

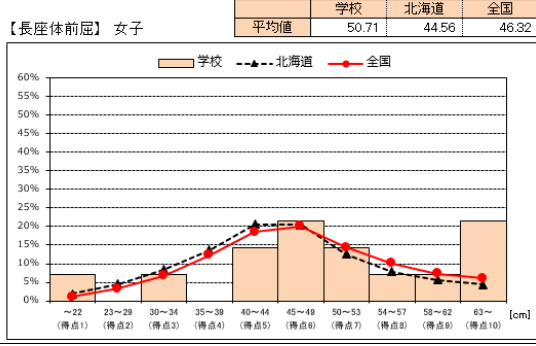
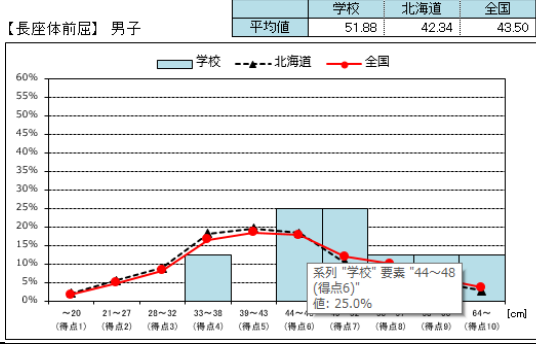
分析



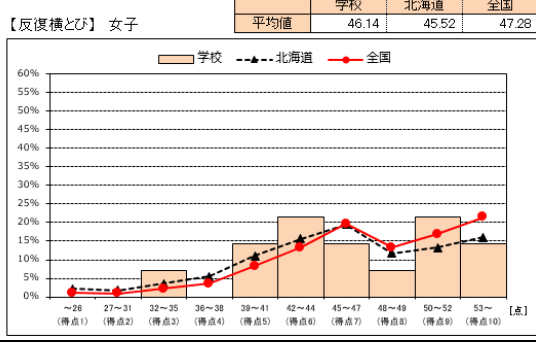
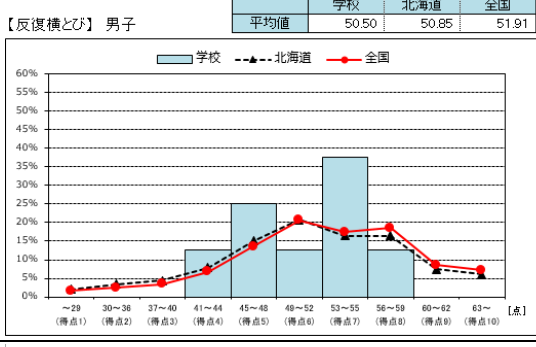
男女ともに全国平均を下回り、その傾向は特に男子に顕著にあらわれている。



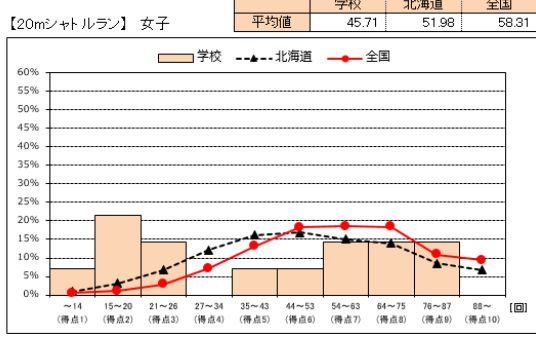
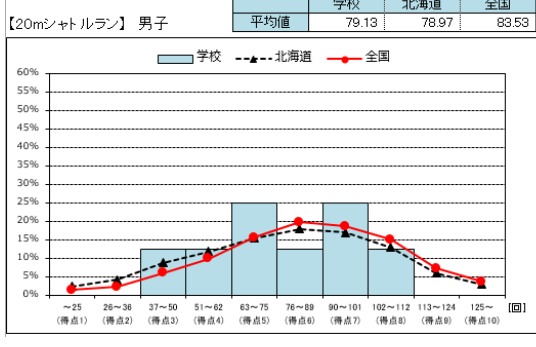
男子は全国平均を上回り、女子は全国平均を下回っている。本校の過去のデータと比較すると男子の平均値は過去最高値、女子は最低値である。



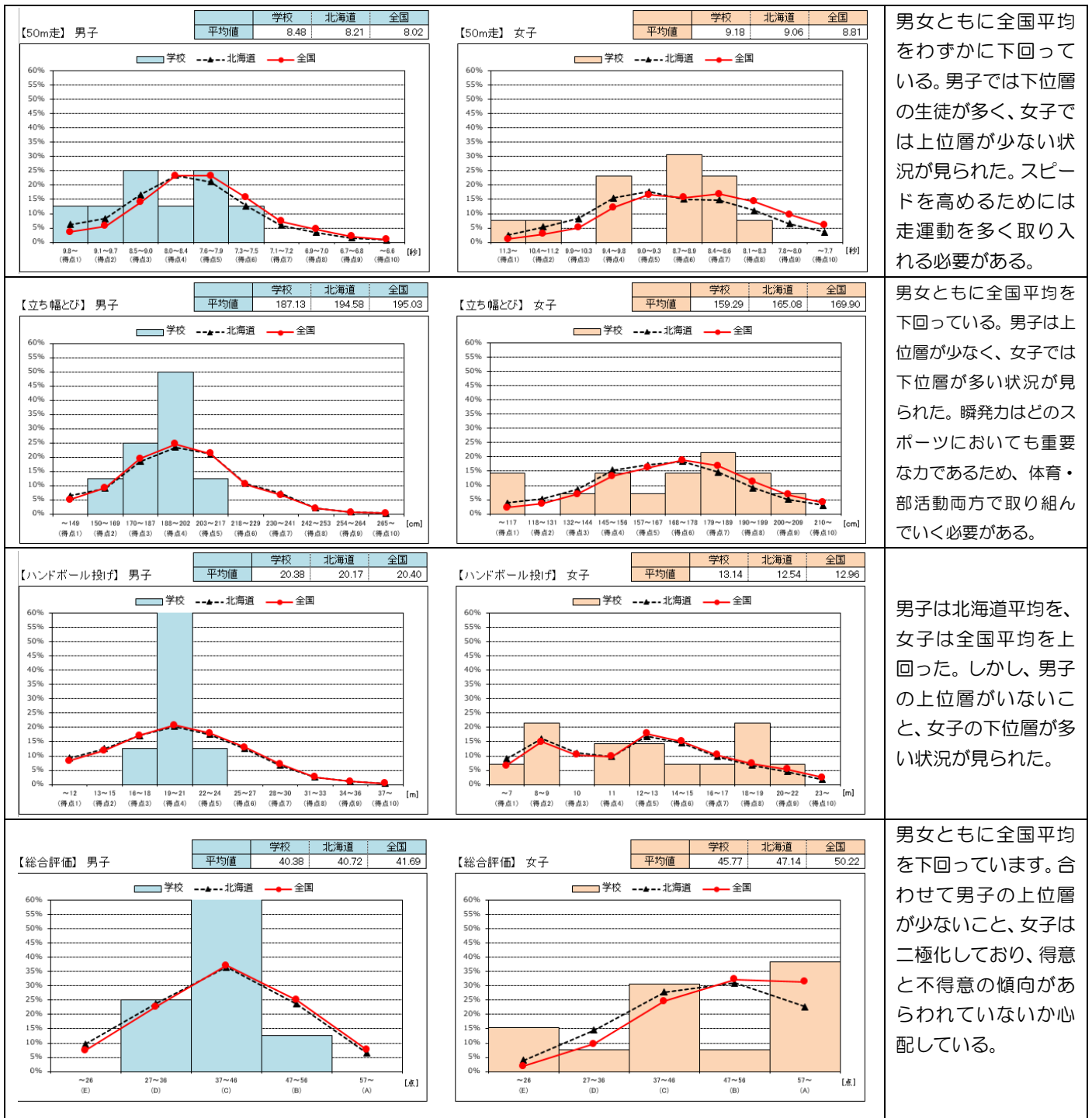
男女ともに全国平均を上回っている。柔軟性は体の可動域を広げたり、体をコントロールしたりと安全に運動する上でも大切なため継続して指導していきたい。



男女ともに全国平均をわずかに下回っている。特に男子は上位層がないことが特徴として挙げられる。



持久力の向上は北海道の大きな課題である。特に女子の下位層の生徒はスクールバス、運動系部活動に未加入などが影響していると考えられる。



男女ともに全国平均をわずかに下回っている。男子では下位層の生徒が多く、女子では上位層が少ない状況が見られた。スピードを高めるためには走運動を多く取り入れる必要がある。

男女ともに全国平均を下回っている。男子は上位層が少なく、女子では下位層が多い状況が見られた。瞬発力はどのスポーツにおいても重要な力であるため、体育・部活動両方で取り組んでいく必要がある。

男子は北海道平均を、女子は全国平均を上回った。しかし、男子の上位層がないこと、女子の下位層が多い状況が見られた。

男女ともに全国平均を下回っています。合わせて男子の上位層が少ないこと、女子は二極化しており、得意と不得意の傾向があらわれていないか心配している。

(3) 今後の取り組み

上記の結果を踏まえて、学校として「持久力」「筋力」を課題として今年度取り組んでいきたいと思ひます。

【今後の取り組み】※**学**…学校の取り組み **体**…体育の取り組み **部**…部活の取り組み **生**…生徒自身の取り組み

全体的な数値の向上を目的とした取り組み	「持久力」「筋力」を向上させる取り組み
<ul style="list-style-type: none"> 日常的に運動を行う環境（場所等）の提供 学 家庭、地域への情報提供（HP・通信等） 学 体育的行事および体育の授業における運動量の確保 学 体 体力テストを複数回実施し、変化を継続的に見取る 体 「新体力テスト」を日常的に意識した取り組み 学 体 生 バランスに配慮した練習メニューの作成 部 全学年の新体力テスト結果に基づく分析及び対策の検討 学 体 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を意識した授業の工夫・改善 体 持久力や筋力を高める具体的な方法等の情報の提供及び理解（職員、生徒、家庭・地域） 学 体 生 体育、部活動での補強運動の実施 体 部 持久力の向上を意識した体育的行事の工夫 学 体

3 生徒質問紙調査について

(1) 各質問ごとの結果と分析（一部抜粋） ※質問事項は簡略化しています

質問	集計結果	分析
Q1 運動やスポーツをすることは好きか。		女子の「嫌い」の割合が高い。体力向上を目指すためにも、運動が「好き」と回答する生徒を増やすために調査や授業改善を行っていく。
Q3 運動やスポーツは大切なものか。		「大切」と考える生徒は比較的多いように思う。より必要感を持たせるためにも「わかる」「活用する」指導を意識する。
Q4 卒業後自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいか。		女子の「思う」の割合が低い。定期的な運動の大切さの必要性を理解し卒業後も取り組めるような指導を考える。
Q7 朝食を毎日食べるか。		ほとんどの生徒が毎日朝食をとっている。その一方で「食べない日もある」と回答する生徒がいる。健康指導に関連させた授業を考えていく。
Q8 毎日どのくらい寝ているか。		全体的に睡眠時間は少ない傾向にある。体の免疫力を高めるためにも十分な睡眠の必要性について指導していく。
Q9 平日のテレビ、スマホ、ゲーム等の利用時間はどれくらいか。		全国・北海道に比べ、使用時間がとても長い。睡眠時間・学習時間への影響が心配されるので引き続き適切な使い方の指導が必要。
Q10 休日の運動をする機会はどれくらいか。（部活、習い事は除く）		女子の中には「全くない」生徒もいる。自主的に運動を行うためには必要性や知識等がなければ行動に結び付かない。授業の中でも日常的に行える運動指導を考えたい。
Q11 保健体育の授業は楽しいか。		女子の中には「あまり楽しくない」と答える生徒が多い。調査などによって原因を明らかにするとともに改善を図っていく。
Q12 保健体育の授業では十分に体を動かしているか。		男子の中には「あまり思わない」と答える生徒もいる。運動量を確保させつつ、体力の向上を図っていくことを目指した授業改善を行う。

※Q13～23 については体育の授業の内容についての質問項目のため、省略。

<p>Q24 「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」はどれくらい当てはまるか。</p>	<p>男子</p>	<p>女子</p>	<p>達成感の部分は全国平均よりも高い結果となった。今後も達成感を得られる取り組みを考えていく。</p>
<p>Q25 「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」はどれくらい当てはまるか。</p>	<p>男子</p>	<p>女子</p>	<p>「当てはまる」と答える生徒が男女ともに少ない。体育のみならず様々な場面で課題解決や達成感を味わえる場面を増やしていきたいと思う。</p>
<p>Q26 「自分には、良いところがあると思う」はどれくらい当てはまるか。</p>	<p>男子</p>	<p>女子</p>	<p>Q25 同様、意識して取り組んでいく必要があると思います。</p>

(2) 今後の取り組み ※**学**…学校の取り組み **体**…体育の取り組み **部**…部活の取り組み **生**…生徒自身の取り組み

- 授業の改善（話し合い活動の充実、ICTの活用等）を行い、運動が苦手・嫌いという生徒の底上げ **学 体**
- 運動、スポーツに興味を持つことができる情報提供 **学 体 部**
- 生活習慣と健康又は運動の観点からの情報提供と知識の理解 **学 体 部 生**
- 自分の運動能力、生活習慣を知る機会の提供と認知 **学 体 生**
- 生活習慣を改善するための学級指導や健康教育の推進 **学 体**